

動物実験に関する現況調査票

大東文化大学

2019年6月

4. 年度ごとの動物実験に関する教育訓練の受講者数

教育訓練受講者数	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
	95人 ^{1,2)}	116人 ¹⁾	111人 ^{1,2)}	97人 ²⁾	93人 ^{1,3,4)}

1) 学部実習生、2) 卒業研究生、3) 大学院生、4) 教職員

本年度の教育訓練は3回実施された(2018年9月26日、9月28日、10月13日)

5. 実験動物飼養保管施設の現況

飼養保管施設(施設)の総数:	1箇所	施設の総延べ床面積*:
		<input checked="" type="checkbox"/> 300㎡未満 <input type="checkbox"/> 300㎡以上

* いずれかにチェックを入れてください。

施設の名称	管理者の職・氏名	実験動物管理者の職・氏名(関連資格・経験年数)	動物種	最大飼養頭数(概数)
スポーツ・健康科学部及びスポーツ・健康科学研究科動物実験施設(動物飼育室・動物実験室)	スポーツ・健康科学研究科委員長及びスポーツ健康科学部健康科学科教授・大城 聡(医学博士)	スポーツ・健康科学部健康科学科准教授・蕪木智子(学術博士・24年)	ラット マウス	50匹 500匹

飼養保管施設の数に応じて、表の行を増やしてください。

飼養保管施設は、管理者および実験動物管理者による一体化した管理体制の下で、実験動物の飼養及び保管等を行う施設であり、一般的には動物飼育室の他、器具洗浄等の管理区域、実験処置室等を含みます。したがって、個々の動物飼育室を指すものではありませんが、全ての動物飼育室は、実験動物飼養保管施設に所属していなければなりません。一体化した管理体制による実験動物飼養保管施設であれば、同一敷地内の異なる場所にある動物飼育室を含むこともあり得ます。なお、哺乳類、鳥類、爬虫類以外の動物の飼養保管施設はこの場合の数に含まれません。

6. 動物実験に関する情報公開

当該情報の公開場所(URL) http://www.daito.ac.jp/research/promotion/animal_experiment.html
--

7. 特記事項

(動物実験に関連した、機関の特徴や特殊事情)

【機関および規程の策定について】

2009年 大東文化大学スポーツ・健康科学部及び大学院スポーツ・健康研究科研究倫理審査委員会の設置（2013年度まで本機関において動物実験計画の審査を行う）及び、スポーツ・健康科学部及びスポーツ・健康科学研究科動物実験指針の策定。

2013年 スポーツ・健康科学部及びスポーツ・健康科学研究科動物実験委員会に呼称改定。

2013年 スポーツ・健康科学部及びスポーツ・健康科学研究科動物実験委員会規程及び動物実験施設飼養・保管マニュアルの機関内規程の策定。

2018年2月22日 大学組織として大東文化大学動物実験委員会が設立され、同時に大東文化大学動物実験規程を策定。

※これまで年間0～10件の動物実験計画の審査、承認を実施。

【自己点検】

2014年度から現況調査、2016年度より自己点検評価を毎年実施している。

2016年度に公私立大学実験動物施設協議会からの外部検証を受けた（申請日2016年7月13日、実地調査11月8日）。その際指摘を受けた点については、2017年度より以下のように改善された。

- ・ 大学組織として動物実験委員会設置、および動物実験規定策定（2018年2月）。
- ・ 継続実験についても、研究計画書の再申請および承認を実施。
- ・ 動物慰霊碑の設置および使用。

※現況調査報告書、自己点検評価報告書および外部検証結果についてはHPで公開している。

【主な実験内容】

学部実習、卒業研究の研究課題、大学院修士課程の研究課、学科および大学院研究科指導教員の特別研究・科学研究費および外部獲得研究費の研究課題において、健康科学、栄養学、スポーツ科学およびスポーツ医学等の各分野の研究遂行のために動物実験が行われている。

【施設】

動物の飼育は10号館4階動物飼育室で行われており、実験および解剖等については、動物飼育室と動物実験室の許可を得た実験室（10号館中央実験室、9号館9301実習室）において実施されている。本実験施設は大学間の共同研究でも利用され、地域連携や地域貢献でも利用可能である。

【動物慰霊式の実施】

2012～2018年度までスポーツ・健康科学部及びスポーツ・健康科学研究科主催の動物慰霊式を年1回執り行い、2018年度は第6回目（2018年10月30日）が実施された。2017年度から動物慰霊碑を用いて実施している。